

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム オータムハウス
所在地 (県・市町村名)	鳥取県鳥取市覚寺51-5
記入者名 (管理者)	田中光恵
記入日	平成 20 年 12 月 5 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オータムハウスの理念が掲げられている ・運営理念がある(運営基本方針)・認知症高齢者の人間としての尊厳を守り、家庭的で楽しく安心できる環境を提供しながら生きる喜びと自身の持てる暮らしを支援します ・運営理念、生活理念に基づいてサービスを提供している(入居者個人の得意とする分野をのばしていくよう心がけている) ・認知症高齢者の尊厳と、自信のもてる暮らし、安心して暮らせる環境の提供と、地域住民との交流の中での介護を理念にあげている 	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念を自分なりに頭に入れケアに取り組めるように話している ・管理者、職員とも理念の実践に向けて取り組んでいる ・スタッフルーム・リビングに見え易いところに掲示してある ・理念をふまえ、短期の目標設定し、実践している 	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームたより「四季」に掲載し、地域やご家族に定期的に紹介するようにしている ・事業所の運営理念・生活理念をリビングの一番良く見えるところに掲げ御家族や地域の方が来所された時に見ていただけるようにしたり、会話の中で伝えたりしている ・運営推進会議時に地域の方とも話し合ったりしている ・外出や地域に出かけたりと、その暮らしを見てもらい理解に努めている 	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームたより「四季」を配ったり、運営推進会議などの時に地域の方と会話したりしてグループホームについて知っていただけるようにしている ・毎日同じスーパーに買い物に行き挨拶をしたり、店員との和やかな交流の場を大切にしている。時々スーパーで知り合いにあって会話を交わしたりしている ・日常的に散歩や買い物に出かけ、挨拶等地域の人々との交流を図っている ・玄関先などでの園芸作業を行っている 	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等に向けて新聞を発行しグループホームを紹介している ・地域の納涼祭、敬老会や文化祭、などの行事に参加している ・幼稚園児との触れ合い会を定期的に行い交流を図っている ・ボランティア方が定期的に来られて一緒にお話や歌などを楽しんで活動している 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスを実施し、近隣のニーズに応えている ・職員が直接地域の高齢者に関することは少ないが、見学者への説明や広報誌などで、認知症介護の知識を提供している 		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価、外部評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて検討し取り組んでいる ・前回の評価を踏まえて、カロリー計算することで、食事のバランスを考えたり、食に対する知識も増えた 		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・会議では活動報告を行い、それぞれの立場からの率直な意見が交換できるよう配慮している ・地域の方や家族、行政を交えて話し合ういい機会となっている ・合同での開催だけでなく、オータム独自の会議を開催し、意見交換を行った 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・会議を開催することでご家族や地域の方のご意見を伺いながら、グループホームケアに生かし向上させたい ・オータム独自の会議を充実させたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長が医療部門の業務を兼務しているため、市担当者との話し合う機会は多くもっている ・サービスの質の向上に向けて、法人全体として取り組んでいる 		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に青年後見制度を利用している方がおられる 		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内でコンプライアンス制度があり、直接施設内で報告しづらい場合でも相談し易い体制となっている ・高齢者虐待防止関連法についての資料、事業所としての取り組みについての資料を回覧しスタッフが理解するようにしている 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時は事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明している ・解約時はご家族、本人、主治医、ソーシャルワーカー、管理者、担当スタッフ等で今後のことを踏まえた話し合いを行い了解、納得を図っている 	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当スタッフを中心となり御家族や本人とコミュニケーションが出来ている ・利用者の何気ない一言、表情から思いを察する努力をし、気付いたことはスタッフ会議やその都度スタッフ同士で話し合い意見を共有するようにしている ・御意見箱を設置している 	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回の広報誌や毎月の手紙による近況報告を実施している。 ・来訪時に意見交換を行うよう心がけている ・適宜、電話報告や来訪時に報告するように努めている 	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の来訪時や家族会などの場を設け意見を聞きそれらを運営ならびに利用者の生活に反映するよう努めている ・意見箱を設置している ・年2回家族会を開き家族同士で話し合ったりスタッフと話す機会を設けている。またお便りや来訪時に声かけ、なんでも話せる雰囲気づくりを心がけている 	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から職員の要望や意見を聞くように心がけている ・月に一度スタッフ会議を設け話し合う機会を持っている 	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な対応がかなうよう勤務調整され、スタッフが配置されている ・なるべく利用者に合わせ柔軟に対応するよう努めている 	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は職員の異動がなかったが今後あった場合、利用者へのダメージを防ぐようにスタッフ間で協力してやっていきたい 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な研修には順番に参加するようにしましたそれ以外の研修にもなるべく参加するようにしている。研修後には報告書をスタッフ全員が回覧し会議での報告など研修内容の共有に努めている ・公休日利用の自主的な研修参加に配慮している ・他の事業所との相互研修や法人内ケアマネ勉強会を開催している ・ケアプランの充実を図るために、勉強会を行ったり、作成したケアプランをグループホーム以外の介護支援専門員に見て頂きアドバイスを頂く機会を持った 	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相互研修に参加し他グループホームの雰囲気や職員の話聞き自分の職場に活かせるようにしている ・県、市、グループホーム協会の研修会などに参加して、学習の機会と同業者の情報交換の場となっている ・他GHへの訪問など交流の機会が少なかった 	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会話すること ・休憩室が確保してある。定期的に親睦会がある ・他グループホームと合同親睦会を行っている ・何でも話せる雰囲気作りを目標に掲げ意識的に取り組んでいる 	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・向上心をもち働けるように、年に一回個人意欲評価表があり、自分の努力を伝える面談がある。 	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前に、事前調査を行い状況の把握に努め、施設見学や面談を通し聴く機会を作っている。 ・必要に応じてデイサービスやショートステイを利用して頂き、本人のニーズの把握に努める体制をとっている 	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前に、施設見学して頂き話し合う機会を持つようにしている ・担当スタッフ中心に、ご希望を聞きケアに活かせる様ご家族とのコミュニケーションを大切にしている 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	・本人や家族の思いを聞きそれを活かせるように努めている ・相談を受けた時、意向に沿う対応になるように努めている。デイサー ビスの利用やソーシャルワーカーを通して在宅で利用できる他サービ スの相談・援助を行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	・傍らにいて会話したり、他入居者と自己紹介し合ったりと和やかに過 ごせるように努めている ・本人や家族に事前に施設見学して頂き内容を十分に説明してい る。デイサービスやショートステイで馴染んでいただいてから利用する など柔軟に対応している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共に し、本人から学んだり、支えあう関係を築いて いる	・利用者主体に活動を行うよう心がけている。 ・「ゆっくり・一緒に・楽しんで」を生活理念とし、一緒にご飯を作ったり後片付 けをしたり活動を共にする事により共に支え合う関係を築くようにしている ・本人の思いを察するように努め、教わることや手伝ってもらえることへの感謝 の気持ちを忘れずに過ごしている。 ・無理強いほしくないよう心がけている。出来たことへの喜びも一緒に味わい、 励ましの声かけも心がけている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支え ていく関係を築いている	・日頃のケアについて相談したり・報告も出来ており一緒に支えていく関係を築けてい る ・可能な限り受診の付き添いはご家族に依頼し、本人の病状をご家族が身近に感じら れるように支援している ・毎月のお便りや来訪時、利用者の様子やスタッフの思いを伝えご家族とスタッフの思 いが同じ方向性になるように努力している ・クリスマス家族会にご家族も一緒に参加し全員の手作りで開催している		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	・家族会等で本人と家族とが一緒に過ごせる場を作ったり、外出や受診の付 き添いもお願いして共に過ごす時間をつくっている ・家族本人の思いを受け止めながら外出やスタッフと一緒にの自宅訪問などを 行っている ・手紙で行事などの参加も気軽に出来るよう知らせたり、来訪時声かけしてい る ・宿泊も可能なように簡易ベットを準備してご家族にも伝えている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	・地元の名所旧跡など本人の馴染みの場所にドライブに出かけるなど している ・家族と協力し、自宅訪問や墓参り、馴染みの理髪店の利用やなど関 係が途切れないようにしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている	・一人ひとりが何か役割を持ったり、皆で支える生活が送れるよう支援している ・不穏な雰囲気を感じたらさりげなく当事者たちを別の活動に誘うなどしてトラ ブルを避けるようにしている ・利用者同士の会話が和やかなにできるよう、その人らしい伸び伸びと活動で きる場を大切にしている ・人間関係を把握し和やかに過ごせるよう配慮している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・法人内の医療スタッフや、ソーシャルワーカーと連携し、状態に応じたケアの提供に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々のスタッフの情報交換やスタッフ会議を通して話し合い実現できるように取り組んでいる ・日々の暮らしの中で利用者との会話や行動を観察し、思いや希望を把握し本人本位の暮らしが出来るよう取り組んでいる。またご家族からもご意向を聞くようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式のアセスメントを利用して、本人ご家族から情報を得記載するようにしている ・以前のカルテを読んだり本人ご家族から話を聞いたりして把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・利用者一人一人の生活リズムや全体像を把握するように努力している。またフォーカスを読むことにより他スタッフとの関わりや自分が知らない面を把握している ・ケアチェック表、連絡ノート、フォーカス、などを活用し、またスタッフ間で申し送りや情報交換等を行い個々の生活リズムや心理状態を把握するよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・担当スタッフが中心となり介護計画を作成している ・利用者一人ひとりの一ヶ月のモニタリングを参考にスタッフ会議で検討し他スタッフからの意見やアイデアを反映させている。また本人やご家族とも日々の関わりの中で思いを聞き介護計画に取り入れるようにしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・一ヶ月に一回定期的にモニタリングしている。また変化のあるときは随時、本人、家族、管理者、担当スタッフ、介護支援専門員を交え現状に沿うよう計画を見直している ・グループホーム以外介護支援専門員がケアプランをチェックする事でケアプランの充実を図ったり、ケアプランの学習会を行っている ・ケアマネ会を定期的に開催しケアプラン等の検討を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・記録漏れがないよう日々心がけ情報の共有に心がけている ・記録を読み不在時の情報収集することに努めている ・個別にフォーカスに日々の記録をしている。体調や実践したケアを記録し(A3用紙)、一週間分が見やすいようにしている。また、特に注意することは連絡ノートに記入し全員が把握するようにしている。入居者の個別記録を残し共有することで次回の介護計画の見直しに活かしている 		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスを実施し在宅の認知症高齢者へ認知症に対応した環境や活動を提供している。実際利用は少ないが在宅介護を続ける家族の要望に柔軟に対応している ・ショートステイ利用できるが、居室の空きがないため入居の際に無理なく入居できる試用期間として考えている 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園児との触れ合い会を定期的実施している ・定期的なボランティアの受け入れを一緒に活動してもらっている ・民生委員に地域活動の情報を頂き参加している 		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉美容室の利用 ・歩行機能維持のリハビリのため、週2回デイケアセンターに通っている方が1名いる ・外部サービス事業を利用し介護用ベットや歩行器をレンタル利用しておられる 		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	<ul style="list-style-type: none"> ・担当のソーシャルワーカーと協働している ・直接地域包括支援センターと協働は行っていない 		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科・皮膚科など協力医は指定しているが、実際どこを受診するかは本人やご家族の希望を優先している ・それぞれに担当医がいる。定期受診や何かあったときにはすぐに相談できる。また近くの医療機関も利用し柔軟に対応している。 ・緊急時の場合も、スタッフ間で連携し対応している 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の先輩として尊敬の念を持ち声かけするよう心がけている、 ・トイレ誘導やバットの交換などへの声かけは、他人に分からない様に、さりげない声かけを心がけている ・1人1人を尊重しプライバシーの確保にお互いに注意し、声かけや対応、記録など個人情報の取り扱いの徹底に努めている 	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いを大切に安心して暮らしとなるよう対応に努めている。 ・日々活動しながら会話の中で思いや希望を探ったり、自己決定できるように本人に理解できる声かけを心がけている ・難聴の方には、カードを利用したり、筆記をして説明している 	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のペースを大切にしている ・一人一人の個性や、その日の体調に配慮しながら活動に誘う時には希望や好みを聞くようにしている ・柔軟に対応できるようにしているが業務、スタッフの人数などにより難しい時もある。 	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族付添いで、馴染みの店を利用している方や、ご家族の希望で福祉美容室の訪問を受けている。また、近所の美容院や法人内の理容室も利用している ・髭剃りを促したり、洗顔、入浴後に化粧水などの声かけをしたり、外出時や、行事の時に化粧の声かけしたりしている。毎日着る服も出来るだけ、自分で選んでもらうようにしている ・季節に合った衣類調整をし、本人の望む衣類を家族が付き添ったり、職員と一緒に買いに出かけている。 	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・BGMを流し、スタッフと利用者が一緒にテーブルで、季節の話題など会話しながら楽しく食事をするようにしている ・利用者個々の力や役割に合わせ、買い物、下ごしらえ、調理、盛り付け、下膳、片づけ等一緒に楽しめるよう行うようにしている。 	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み物は利用者の好みに合わせて提供している。おやつも希望があればスーパーと一緒に好みのものを購入している ・好きな食べ物飲み物を把握し楽しみの一つとしている 	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄、下剤服用の記録を残し排泄リズムを把握し、個人に合わせた排泄誘導、援助を実施している ・ヨーグルトや牛乳を摂取したり、水分補給を心がけている。 ・運動を促したり、腹部マッサージを行い自然排便につながるよう取り組んでいる ・オムツの使用も個別に検討したうえで使用している 		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの人数に限りがあり入浴日、時間は大体決まっているが、ゆったりと入浴を楽しめるよう声かけ等の工夫をしている ・入浴拒否がある人は、無理強いせず、時間をずらしてみたり、声かけスタッフを変えてみたり、他の日にしたりと対応を工夫している ・スタッフの少ない夜間は安全を考慮し実施していない 		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングでゆっくりテレビを見たり居室で昼寝したり、体調に合わせた休息を取り入れている ・寝る前には温かい飲み物を飲みながらゆったりと落ち着いた時間を過ごし、気持ちよく眠れるように支援している ・起床時間、午睡、就寝時間など特に決めず、個々の生活リズムに合わせている。夜間ゆっくり休めるように日中の活動量に配慮している。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは、利用者の出来ること出来ないことを把握し生活の中で役割を持つように支援している。 ・食事づくりや庭木の剪定、洗濯物干し、干し柿作り、裁縫等それぞれの得意分野で力を発揮して貰える様に支援している ・散歩やドライブ、買い物に出かけたり楽しみごとがある 		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のお小遣の管理は事務所が行っている。出来るだけ買い物など本人の意思に添うよう努めている ・ご家族と相談したうえで持てる方には、お金を持ってもらうようにしている 		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望に沿って買い物やドライブなど積極的に出かけている ・ホーム専用の車があり、毎日の買い物やドライブその他天候や希望に合わせて散歩や喫茶店、催し物会場に出かけている ・歩行困難の方も車椅子を利用し出かけている 		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・コーヒー好きな人は喫茶店へ、自宅に帰りたい人は自宅へなど個別に対応しご家族の方にも協力していただいている ・家族会で遠出したり、行事で普段いけない所へ行ったりしている。家族の方の参加も呼びかけ交流を図っている 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に年賀状や手紙を出したりしている ・ホーム内に電話があり、本人が自ら電話利用している入居者もいる 		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時間は定めず、いつでも都合のよい時間に来ていただけるように配慮している。希望があれば宿泊できるように準備している。 ・訪問時はお茶や椅子をすすめ、笑顔での対応を心がけている ・訪問した人は、皆家族的な交流をしている 		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束の内容とその弊害を理解し拘束のないケアをしている ・夜間転倒の危険性のある利用者に対しては居室確認の回数を増やすなど工夫している 		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関はスタッフが少ない夜間、早朝以外は鍵をかけないようにしている。居室も利用者自らかける以外はかけないようにしている ・利用者が一人出かけた場合は、職員で見守り方法を話し合い、さりげない声かけで対応するようにしている 		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・活動する時、誰と誰をどの活動に参加していただくか連絡を取り合って把握できるようにしている ・昼間は見守りをして所在を把握し、夜間は1時間ごとの巡視と23時3時の居室確認その他適宜確認している ・日中玄関の鍵をかけていないので、鈴をつけ出入りを察知し易くしている。 		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・危険と思われる物品は、手の届かないところや施錠の出来る場所へ保管し、必要時のみ使用し片付けている ・利用者の個々の状態を把握し家族やスタッフの間での情報交換を行い危険物の取り扱いを決めている。 ・火の元になるものは持ち込まないように説明している 		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のヒヤリハットを記録し回覧してスタッフの共通認識をはかっている ・緊急時マニュアル、災害時マニュアルを作成している ・個々の状況に応じ、日常の様々な場面で見守りし、事故防止に注意を払っている ・法人内の医療安全対策委員会に定期的に出席しスタッフへ情報を提供している 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・マニュアルを作成している。 ・緊急時対応の本を購入しいつでも見られるようにしている ・夜間は警備会社への連絡端末を携帯して巡視を行う。非常時には法人内病院スタッフが応援に来るための手順を決めている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている ・夜間は警備会社への連絡端末を携帯して巡視を行う。非常時には法人内病院スタッフが応援に来るための手順を決めている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・体調の変化や、身体的機能の低下に伴って生じる事故などを予測して面会時やお便りなどで家族に伝えている ・実際に転倒など生じた場合は、電話で報告し、相談している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日、定時にバイタルチェックしている。食欲や顔色の変化を観察している。体調の異変に気付いた場合、職員同士で情報を共有し、速やかに医療機関へ連絡・相談している ・変化があった時や小さなことでも必ず記録に詳細を記述し情報を共有し、申し送りをしている。必要な時には連絡ノートにも記載し全職員が把握できるようにしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の内容、目的、副作用の用紙をカードケースの中に入れてすぐに見れるようにしている。 ・薬が変更された時は記録や申し送りを充分に行いスタッフ全員が把握し変化を見逃さないようにしている ・薬の棚、ケースを設置し個別に分かり易くしている。服薬は手渡し服薬してもらっているが困難な場合は介助している ・処方時に報告書などを作成し医師に利用者の様子を伝えるようにしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・繊維質の多い食事や乳製品・水分摂取に心がけている。 ・散歩や、体操など身体を動かす活動に取りいれたり、腹部マッサージを行い自然排便につながるよう取り組んでいる ・排便の記録、下剤服用の記録を残し排便パターンの把握に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後歯磨の声かけを行い、個々に応じて見守ったり、一部介助を行ったりしている(毎回義歯をはずして洗浄) ・週一回義歯洗浄(タフデント)、歯ブラシ、コップ消毒実施している ・自立している方は自室で行っている(必要に応じて声かけ)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の食事、水分の摂取量を記録しスタッフが情報を共有している。献立は管理栄養士のアドバイスを頂いている ・水分量の不十分な方には、好みのもみ物を提供している 		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症に関するマニュアルはいつでも見れるようにしている ・利用者職員ともインフルエンザの予防接種を行っている ・外出後には必ず手洗いやうがいを実施している 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・新鮮な食材を購入するようにしている。鮮魚など生ものは当日購入している ・調理前の手洗いの徹底、清潔なエプロン、布巾や手拭タオルをこまめに替えている ・毎日台拭きや包丁、まな板はアルコールまたは塩素系ハイターによる消毒を実施している 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関前にプランターを置き花を植えている。また、ベンチを置き親しみやすいようにしている ・玄関内に安全に靴の着脱が出来るように椅子を置いている。ご家族の手芸や入居者の作品を飾っている 		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の写真を貼り変えたり、七夕の笹、クリスマスツリー、ゆず湯など季節感を取り入れている ・献立やおやつも季節の物を大切にしている ・カレンダーや花、季節感のある物などを壁面に飾り、居心地良く過ごせるように努力している ・テレビやCDの音量にも配慮している 		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングやダイニング廊下にも椅子やソファ、畳みベンチがあり思い思いに過ごせるよう配置している ・テレビの前にソファを置き集まりやすくしている ・長い廊下には、休憩場所を兼ねて椅子を置き入居者同士のおしゃべりの場となっている 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家具の位置など暮らしやすいよう工夫している。 ・個々の馴染みの物などを置き落ち着いて過ごせる空間づくりを心がけている ・以前家で使用していたソファや鏡台、タンスを使用したり、家族の写真を飾ったりして安心して過ごせるよう工夫している 		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房に頼り過ぎないようにしている。トイレは、常時換気扇を回し、消臭剤を設置している ・居室のエアコンは気温や体調に合わせて調整している ・台所では換気扇を使用。掃除の時など適宜窓を開けて換気している ・冬場は、加湿器を居間に2台設置している 		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・浴室、トイレに手すり設置し入居者の自立と安全に努めている ・段差のない環境作り。掃除機のコンセントにも気を付けている ・居室外には手すりが多く設置してある。椅子やテーブルを配置し伝い歩きがし易いようにしている 		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・今日が何日か分かるようにメッセージボードやカレンダーが良く見えるところにある ・居室の分からない入居者には表札を立体にして見やすくするなど、一人ひとりに合わせて工夫している ・「男性便所」「女性便所」と分かり易く表示している。夜間混乱しないように白板に「トイレはこちら」など書き知らせしている ・色のわかりにくい人には食器の色を変えたり、・難聴の人にはカードや筆談するなどして混乱がないように支援している 		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関にベンチを置いて一緒に日向ぼっこしたりしている ・玄関にプランターを置いたり、裏の畑に水遣りしたり、植木の剪定して活動している ・ベランダで餅つきをしたり、裏の広場で流しソーメンをしたり、裏庭まで散歩に行ったりと、生活の一部として活用している ・利用者と一緒にベランダに洗濯物を干している 		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)